

かもめSCHOOL 発表原稿

	<p>みなさん、こんにちは。 わたしたちは、みなとみらい本町小学校です。 今日は、わたしたちの学校の取組を紹介します。</p>
	<p>みなとみらい本町小学校は、2018年にできた新しい学校です。 学校全体でも、学年やクラスでもESDやSDGsに積極的に取り組んできました。とくに、まちな出かけ、まちの課題を見つけて、その解決に向けて取り組んできました。今日は私たちの活動を報告します。</p>
	<p>ぼくたちは、3年生の時に「海をきれいにする」というテーマで学習を始めました。 まず、高島水際線公園で活動をしているハマ海会の吉野さんに「よしがたくさん生えていて困っている」という話を聞き、よしをかることにしました。</p>
	<p>1時間ほどかると、キャリアカーがいっぱいになりましたが、よしはまだ半分も刈れませんでした。 クラスみんなでよしを持ち帰りながら、このよしを何かに使うことができないか考えました。 様々な意見も出ましたが、いろいろな形ができそうな「よしず」を作ろうという流れになりました。</p>
	<p>そこで、浅草のすだれ職人である田中さんに来てもらいました。 よしずをどのように作っているのか、どのようなものが自分たちが取ってきたよしで作れそうかを聞きました。その時にクラスみんながよしずづくりを体験して作ったのがこちらです。 (よしずを見せる) よしが日本ではなかなか取れないことや、道具にはなるべく自然のものを使っていることを聞きました。また、「よしず作りで使うよしは使わないところはない」という話も聞き、田中さんの思いもよしず作りにつなげたいと思いました。</p>
	<p>わたしたちは田中さんの話から、身の回りにある使われなくなったものを使って、よしずづくりにひつような道具を作ることにしました。 けたという土台はダンボールやおかしが入っていたかん使って作ったり、糸は家で使わなくなった糸を使ったりしました。今グループに分かれて道具を作っているところです。使わなくなったものを再利用することで新たなものを作ることができることを実感しました。</p>
	<p>よしずづくりと一緒に、よしを住処とするカニなどの生き物のことも考え、高島水際線公園のよしをどれだけ残すのかも考えました。写真のように、より海に近いところは残し、陸に近いところを刈ることで、公園としての景観と生き物の住処の確保をどちらも行おうとしました。このような活動を3年生でしたことから、みなとみらいの生き物や環境を守るために、みなとみらいの海を人にとっても生き物たちにとってもよりよい環境にするため、今年、5年生でも取り組んでいます。</p>

	<p>ぼくたち5年生は、みなとみらいのまちの問題点として、海の汚れ・ゴミが気になることを多くの方があげました。</p> <p>そこで、臨港パークの現状を見に行き、水質やゴミの量を調べました。</p> <p>すると、海の水は濁っていないで透明でした。臨港パークの海の見た目は汚れているように感じていたので、この結果にはびっくりしました。</p> <p>しかし、ゴミがたくさん流れ着いていて、海のごみ問題は予想以上に悪いように見えました。</p>
	<p>高島水際線公園も同様に調べました。</p> <p>高島水際線公園でも多くのゴミがありました。</p> <p>しかし、高島水際線公園にはカニやチヂブなどの生き物が住み着いていて、よしなどの植物もたくさんあり、臨港パークよりは生き物の住処となる場所があるように感じました。</p> <p>2つの公園を調査した結果から、ゴミと生き物の関係性も考えつつ、学習を進めることにしました。</p>
	<p>まずは、生き物に関することを考えました。</p> <p>学校には卒業生がみなとみらいの海の環境を再現した気水槽があります。</p> <p>この水槽を元にしつつ、生き物がより住みやすい環境を実際に作っていき、水槽で行ったことを実際の海でも再現すれば、生き物が住みやすい環境づくりにつながるのではと考えています。</p>
	<p>臨港パークや高島水際線公園はみなとみらいのまちの中にあり、生き物がいる貴重な場所です。</p> <p>生き物が住みやすい環境をどのようにしてつくっていくか、ゴミをどのように減らしていくかを考えるとともに、地域にも考えを広め、人にとっても生き物にとっても居心地のよい場所になってほしいと思います。</p> <p>以上で発表を終わります。</p> <p>ありがとうございました。</p>



	<p>ぼくたち5年生は、みなとみらいのまちの問題点として、海の汚れ・ゴミが気になることを多くの方があげました。 そこで、臨港パークの現状を見に行き、水質やゴミの量を調べました。 すると、海の水は濁ってなくて透明でした。臨港パークの海の見た目は汚れているように感じていたので、この結果にはびっくりしました。 しかし、ゴミがたくさん流れ着いていて、海のごみ問題は予想以上に悪いように見えました。</p> <p>高島水際線公園も同様に調べました。 高島水際線公園でも多くのゴミがありました。</p>
	<p>しかし、高島水際線公園にはカニやチヂブなどの生き物が住み着いていて、よしなどの植物もたくさんあり、臨港パークよりは生き物の住処となる場所があるように感じました。 2つの公園を調査した結果から、ゴミと生き物の関係性も考えつつ、学習を進めることにしました。</p> <p>まずは、生き物に関することを考えました。 学校には卒業生がみなとみらいの海の環境を再現した気水槽があります。</p>
	<p>この水槽を元にしつつ、生き物がより住みやすい環境を実際に作っていき、水槽で行ったことを実際の海でも再現すれば、生き物が住みやすい環境づくりにつながるのではと考えています。</p> <p>臨港パークや高島水際線公園はみなとみらいのまちの中にあり、生き物がいる貴重な場所です。 生き物が住みやすい環境をどのようにしてつくっていくか、ゴミをどのように減らしていくかを考えるとともに、地域にも考えを広め、人にとっても生き物にとっても居心地のよい場所になってほしいと思います。 以上で5年1組の発表を終わります。</p>

